

開業一年目にして
一七〇〇万円を稼ぐ！

「大学時代に仲が良かった後輩が、銀行に就職後しばらくして過労死したんです。そのころからです。組織の中で働くことに疑問を持ち始めたのは……」

現在、税理士として活躍している山本恵明さん（三七歳）は、自らのサラリーマン時代をこう振り返る。

山本さんが大学を卒業した一九九四年は、就職氷河期の初期。

希望していた企業からは内定がなかなかもらえず、結局、大手工業計器メーカーに入社した。半導体試験装置の営業に配属されたが、最初は技術系の知識を深めるためにプログラミングや回路設計に従事。慣れない技術系の仕事に悪戦苦闘しつつも、出世を目指してコツコツと頑張っていた。しかし、その努力にも空しさを感じるようになった。

「後輩の死をきっかけに健康管理を意識するようになり、残業しないで早朝出勤する習慣をつけました。ところが、会社が評価するのは、ただだらと残業して上司にアピールするのがうまい人。このまま会社で頑張っても、自分は出世できないような気がしてきました」

四十代のビジネスマンにとって、山本さんの境遇は他人事ではないだろう。自分たちのキャリアプランを描いて動いて

ぶしが利く人の 「失格資格」大図鑑

specialties
and
skills
in demand

……
間をつくり、
強すれば
できるのか

きながら難関資格に挑戦し、栄冠を
勝ち取る——。一体どうやって
をつくり、勉強すれば可能と
な。また出世や転職、独立に
能力を発揮するものなのか。
体験者を直撃して解明する！

ジャーナリスト
村上 敬＝文
text by Kei Murakami

伊波二郎＝イラストレーション
加藤雅昭、宇佐見利明、向井 渉＝撮影

税理士なら好きな仕事を自分のペースでできる。そう思って、働きながら資格の勉強を始めた」

手始めに日商簿記二級を取得。それから本格的に税理士の勉強を始めた。実務経験を積むため、会社に出社して経理への異動も果たした。周囲には資格取得を宣言。スクールに通う日は定時に帰れるように逆算して仕事を片付ける工夫をし

た。陰口を叩く同僚もいたが、理解ある上司に助けられ、勉強の時間はきちんと確保した。

ちなみに税理士は二科目中五科目合格で取得できる科目合格制で、一度合格した科目は無期限で繰り越せる。自分のペースで合格プランが立てられるので、働きながら取得するのにもってこいだ。山本さんの場合は、初年度に二科目、次いで〇科目、一科目、二科目と、四年が

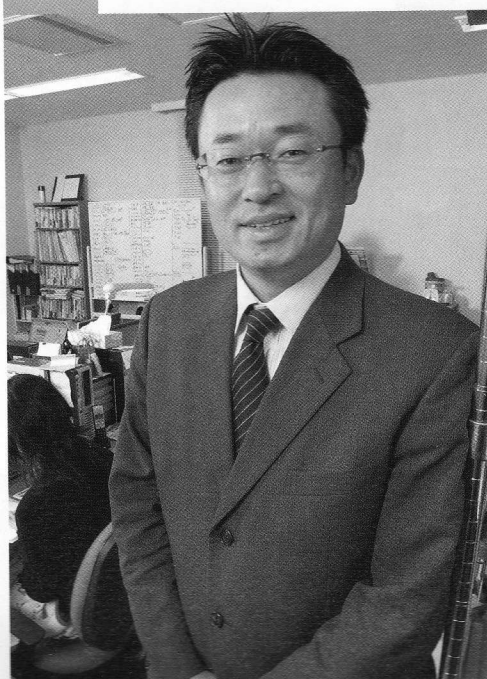
かりの資格取得だった。

資格を取得した翌年の二〇〇五年に開業して、インターネットを活用したマーケティングで、一年目から四〇社の新規顧客を獲得。売り上げとなる顧問料収入も、初年度一七〇〇万円を達成した。

「以前と比べて忙しさは変わりませんが、主体的に仕事に取り組めるから充実感が違う。また、自分で時間管理できるので

落していくのを目の当たりしている。将来に不安を抱えながらも、これからどのように自分のキャリアをつくっていくべきなのか、というのが彼らの本音でしょう」

そこでキャリアを見直すきっかけとして活用してもらいたいのが資格取得だ。主要な資格の平均合格年齢は三〇歳前後で、四十代がいまから挑戦して成功でき



山本憲明 37歳
●税理士

早稲田大学政治経済学部卒後、横河電機に入社。働きながら4年で税理士試験に合格、1年間の準備期間を経て2005年に独立、千葉県船橋市に「山本憲明税理士事務所」を開設する。ほかに気象予報士の資格も取得。著書に『税理士 最短合格の時間術・勉強術』などがある。

●Noriaki Yamamoto

目され始めたのは、九九年に立命館大学が就職部を発展的改組して、入学時から就職などのキャリア指導を行うキャリアセンターを開設してから。現在の四十代の多くは、若いうちから自分のキャリアを考える教育や機会もな

「社労士になってやりたいことがある」

実際に会社員時代の経験を最大限に活かして活躍している人もいる。社会保険労務士の杉山秀文さん(四七歳)だ。

杉山さんは大手電機メーカーから出版社に転職して、人事畑を歩んできた。早い時期から独立を視野に入れていたが、実務経験を積むことを優先。途中で転職したのも、規模の違う会社に移って人事マンとして経験の幅を広げたかったからだ。社労士の試験は三八歳のときに初めて挑戦した。

れる。そのまま漠然と組織に残っても展望は開けないが、転職や独立に役立つようなスキルもない。そこに閉塞感や焦りを感じている人も少なくないはずだ。

では、どうすれば活路を開けるのか。山本さんが辿り着いた答えは「資格」だった。

「行き詰まりを感じていたころ資格の本を読んだら、税理士は食える」と書いてあった。昔から数字を扱うのは得意なので、

家族と過ごす時間も増えた。いまは週末に息子の少年野球のコーチをする時間が一番の楽しみです」

『資格試験合格後の本』や『価値ある資格厳選200』『インターネットでMBA・修士号を取る』などの著書がある資格ジャーナリストの笠木恵司さんは、四十代ビジネススマンが抱える問題を次のように解説する。

「働く側のキャリアデザインが日本で注目され始めたのは、九

るのかという疑問も浮かぶ。

しかし、笠木さんは、「四十代だからこそ有利な点もある」と指摘する。

「資格さえあればメシが食えるというのは間違い。たとえ資格で独立しても、ビジネススマンとしての実務経験やマネジメント能力、コンサルタントとしてのコミュニケーション能力がなければ、職業として続けていくのは困難です。その点、組織の中で揉まれてきた四十代には大きなアドバンテージがあります」

「それなりの点数が取れる自信はあったのですが、結果は散々。でも、それが逆によかったのでしょう。試験のレベルと自分の実力の差を痛感したことで、本腰を入れて勉強に取り組むようになり、翌年には無事に合格できました」

合格後、すぐには独立しなかったが、人事部次長から秘書課を経て、退職を決

閉ざされ、キャリアの限界を突きつけら

弁税弁どどゲ